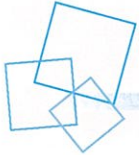




# 梓川流域 ふるさと通信

第17号 令和6年1月20日  
発行 ふるさとの安全安心をめざす  
NPO法人 梓川流域を守る会  
理事長 忠地義光  
〒390-1520 松本市安曇209-1



## 理事長あいさつ

令和6年の新春を迎えお喜び申し上げます。

日頃は、当会へのご支援ご協力を賜り衷心より御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、地球温暖化やエルニーニョ現象などで、世界各地で豪雨災害やハリケーン災害、山火事が発生、また日本各地でも線状降水帯等の発生で大災害が起こり、尊い人命と家屋財産が失われました。

年が改まった1月1日には誰も想定していなかった規模の能登半島地震が起き、家屋などの倒壊や津波被害により、多くの人命が失われ、いまだ行方不明の方も多くおり、自然の恐ろしさを見せつけられました。

お亡くなりになった方や被災された多くの方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。経済発展と共に地球温暖化が一層進む感があるなかで、昨年12月開催された国連気候変動枠組み条約締結会議(COP28)において、日本は脱化石燃料、脱石炭火力発電に対して消極姿勢で臨んだとのこと、残念であります。CO2排出量削減のため、国内各地原子力施設の一日も早い安全な稼働、自然エネルギーの大いなる活用を期待するものであります。

さて、当会では、命と暮らしを守り安全安心の地域であるよう、毎年、国・県・市の行政機関の職員の皆様と共に、安曇、奈川地域の災害発生危険箇所や老朽化した砂防施設等を視察し要望活動に取り組んでいます。

昨年は、10月16日、18日の両日現地視察を、11月17日には務台俊介衆議院議員、太田茂登長野県松本建設事務所長、桐沢明雄松本市建設部長のご同行を願い、国土交通省草野慎一砂防部長ほかに要望活動を行いました。

このような地道な活動により、上高地の河床上昇対策、焼岳、乗鞍岳の噴火対策をはじめ、奈川、安曇両地域の砂防事業、河川対策、道路整備が実施されており、10月28日には上高地公園線への土砂流出防止策として「上千丈沢砂防堰堤工事」の起工式が挙行されました。

安全安心の地域づくりのため、本年も皆様のお力添えをいただき、要望活動や事業推進に取り組みますので、何卒よろしくお願いいたします。

結びに、本年が良き一年でありますようご祈念申し上げます。



特定非営利活動法人 梓川流域を守る会  
理事長 忠地義光





## 流域の「いのち」と「くらし、なりわい」を守る砂防

令和6年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。



まず、令和6年能登半島地震により被災された全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。松本砂防事務所では、地震後ただちに、土砂災害による被災状況の調査のためTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）を派遣したところです。引き続き、被災地の安全確保と早期復旧に向けて支援を継続してまいります。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、さまざまな制約が解けて人流が回復しました。上高地など梓川流域にも、国内外から大勢の方々が来訪され、以前のような賑わいが少しずつ戻ってきたとのお声も聞いています。

NPO法人梓川流域を守る会の皆様におかれましても、砂防事業の重要性や災害の体験談など、コロナ禍前のように積極的な啓発活動を行って頂きました。また、国土交通本省への要望活動や（一社）全国治水砂防協会の促進大会への参加など、活発に取り組んでいただきました。このような、地域に根ざした継続的な取り組みに対し、感謝とともに深く敬意を表したいと思います。

昨年は、梓川流域では大きな出水はなかったものの、記録的な渇水や猛暑に見舞われた年でした。これも、近年の気候変動による異常気象の表れではないかと思いますが、集中豪雨や地震、火山活動など、自然災害への懸念はますます高まっています。ひとたび甚大な土砂災害が発生すれば、住民等の生命はもとより、地域で大切に受け継がれてきた伝統文化、地域資源を活かした観光や特産品など個性豊かな産業等、地域の暮らしや生業が危機的な状況に見舞われてしまいます。

昨年10月に行われました皆様との合同現地調査には、私も2日間同行させていただき、住民等の心配や要望など、丁寧に教えていただきました。松本砂防事務所としましても、安全で安心して暮らせる梓川流域となるよう、地域の皆様から喜ばれるような砂防に取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとって災害の無い、素晴らしい1年となることをご祈念するとともに、本年も皆様からの温かいご支援とご協力をお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

国土交通省 松本砂防事務所長 石尾 浩 市



## 通常総会が開催されました

通常総会を令和5年6月15日ホテルモンターニュ松本において開催し、議長に前松本建設事業所長の藤本済氏が選出され、事業報告及び決算、事業計画及び予算（収入支出それぞれ2,530千円）が承認されました。

また、総会に公務でお忙しい中、臥雲義尚松本市長及び城ヶ崎正人国土交通省砂防部保全課長にご臨席賜り、それぞれからご祝辞を頂きました。

そのほか、石尾浩市国土交通省松本砂防事務所長、井口英道林野庁中信森林管理署長、吉村元吾長野県砂防課長、太田茂登松本建設事務所長よりそれぞれ事業説明をしていただきました。

大野宏之全国治水砂防協会理事長、亀江幸二砂防フロンティア理事長にもご臨席いただき、それぞれからご挨拶を頂きました。

その他にも、大勢の県議会議員及び市議会議員の皆様にもご出席いただき、盛大に開催することが出来ました。

総会終了後、城ヶ崎正人保全課長から「いのち」と「くらし」を守る砂防という演題でご講演をしていただきました。



— 通常総会の様子 —



藤本済議長



忠地義光理事長



臥雲義尚松本市長様



城ヶ崎正人  
国土交通省保全課長様



大野宏之  
全国治水砂防協会理事長様



亀江幸二  
砂防フロンティア理事長様



石尾浩市  
松本砂防事務所長様



井口英道  
中信森林管理署長様



吉村元吾  
長野県砂防課長様



太田茂登  
松本建設事務所長様



# 令和4年度会計決算報告

## 令和4年度特定非営利活動に係る会計収支決算

収入総額 2,642,723円  
 支出総額 1,520,669円  
 収入支出差引残金 1,122,054円 (翌年度へ繰り越し)

科目	予算額	決算額	比較
<b>I 収入の部</b>			
1 会費収入 正会員 233 人 賛助会員 38 企業 45 口	465,000	458,000	△ 7,000
2 前期繰越金	1,293,715	1,293,715	0
4 補助金・交付金	1,000	0	△ 1,000
5 受託事業収入	891,000	891,000	0
6 雑収入	285	8	△ 277
収入合計	2,651,000	2,642,723	△ 8,277
<b>II 支出の部</b>			
1 事業費			
①砂防治山事業など調査提言事業	300,000	199,035	△ 100,965
②河川・道路の危険箇所調査提言事業	20,000	19,498	△ 502
③防災意識啓発普及事業	560,000	334,377	△ 225,623
④維持管理活動支援	20,000	0	△ 20,000
⑤受託事業支出	600,000	398,014	△ 201,986
	(1,500,000)	(950,924)	(△ 549,076)
2 管理費			
事務消耗品費	140,000	171,743	31,743
会議費	30,000	0	△ 30,000
費用弁償	130,000	312,450	182,450
役務費	55,000	48,972	△ 6,028
車両費	30,000	1,580	△ 28,420
負担金	40,000	35,000	△ 5,000
	(425,000)	(569,745)	(144,745)
3 予備費	726,000	0	△ 726,000
支出合計	2,651,000	1,520,669	△ 1,130,331

## 役員紹介

令和5年6月15日の通常総会において次の方々が新役員に選任されました。

任期 令和5年7月1日～令和7年6月30日

役名	氏名	住所又は居所	役名	氏名	住所又は居所
顧問	森 俊勇	砂防フロンティア技術顧問	理事	大野 哲治	松本市安曇稲核
顧問	亀江 幸二	砂防フロンティア理事長	理事	橋本 実嗣	松本市奈川古宿
顧問	今井 一之	砂防フロンティア理事	理事	勝山 裕康	松本市奈川大平
顧問	坪田 明男	松本市反町	理事	齊藤 正人	松本市奈川寄合渡
顧問	奥原 将弘	松本市安曇島々	理事	齋藤 高一	松本市安曇島々
理事長	忠地 義光	松本市奈川入山	理事	牛丸 仁志	松本市波田
副理事長	上條 敏昭	松本市安曇島々	理事	百瀬 輝正	松本市安曇沢渡
副理事長 (事務局長)	奥原二美人	松本市奈川金原	(会計)		
理事	青柳 薫	松本市安曇上高地	理事	加藤 市朗	松本市安曇橋場
理事	奥原 仁作	松本市奈川曾倉	(事務局)		
理事	筒木 隆雄	松本市安曇白骨	監事	上條 良文	松本市安曇島々
			監事	忠地 愛男	松本市奈川入山

## 現地調査の実施

令和5年10月16日と10月18日の2回に分けて松本砂防事務所、松本建設事務所、松本地域振興局林務課及び松本市建設総務課、環境・地域エネルギー課、アルプスリゾート整備本部の職員などにご同行いただき現地調査を実施しました。

### 1日目 10月16日

忠地理事長以下当会理事数名と石尾松本砂防事務所長及び職員数名、太田松本建設事務所長及び職員数名、長野県松本地域振興局中宿林務課長、アルプスリゾート整備本部職員、松本市建設総務課職員数名、大野松本市安曇地域づくりセンター長、高山松本市奈川地域づくりセンター長など大勢の方々にご同行いただき、現地で地元住民の方々から要望を受けながら、安曇地区の現地調査を実施しました。

#### 1. 島々谷川砂防施設など



当会上條敏昭副理事長；

現状の床固工などの砂防施設は老朽化しており、洪水などが起きたときに崩壊して大災害を起こす危険性があるので、早急に改修工事を行っていただきたい。

また、国道158号沿いの河川の中の立木は、災害時に倒木して大災害を引き起こす危険性があるので、早急に撤去してほしい。



## 2. 沢渡根木沢と国道の交差点付近

当会百瀬輝正理事；

根木沢に架かる国道158号の橋は沢よりかなり狭くなっているため、大きな洪水が起こった時にはここを通過する観光客や周辺の住宅まで、大災害になる危険性が高い。

安全確保の為、川幅の拡幅と国道の橋長延長をしてほしい。



## 3. 白骨温泉公共露天風呂付近

当会筒木隆雄理事；

公共露天風呂の基礎に近い岩が崩れそうになっている現状です。ほかに複数箇所このような状況が散見できる場所があります。川の流れの中に崩れ落ちると流れを変えたりせき止めを発生させる危険性があります。早急に適正な処理をお願いしたい。



－ 明神橋より上流の梓川 －

## 4. 明神橋付近

梨子田明神館社長；

この地域は、川幅300m近い為、一見したところでは、見落とされてしまいます。

今後、更に、新村橋の工事が終われば、この一帯に、梓川の徳沢付近までの堆積物も溜まってくると思われます。

全域が深さ、5mから8mに達しています。

梓川一帯が、いっぱいになれば、明神地区の高山植物帯が全滅します。



－ 白沢の橋 －

まずは、

1、徳沢付近、下又沢付近で、上流部の土砂を撤去していただきたい。

2、徳沢から明神にかけての網状流路全域に溜まった土砂を撤去していただきたい。

白沢から梓川に滞留した土砂も、常に一時的措置でかきあげることによって、丘が出来、至る所に柳の森が出来ていますが、柳は、川が荒れる事によって、繁殖を繰り返している樹木です。

## 5. 徳沢横尾連絡道工事進捗状況

横尾の下流付近では連絡道路の工事が進められていました。

また、新村橋の工事も右岸側の橋台建設工事が進められています。

この地区の方々が待ち望んでいた連絡道があと数年で完成します。



－ 横尾下流付近の連絡道工事現場 －



－ 新村橋工事現場 －

## 6. 徳沢の橋付近



－ 土砂で埋まった徳沢の橋付近 －

古畑満徳沢ロッジ支配人；

梓川本流の土砂の大量な堆積により河床の上昇が顕著になっている。加えて護岸の倒木が多数発生し、川の流れを変えている箇所も見受けられる。

土砂の撤去と倒木の撤去をお願いしたい。

併せて当地上流に砂防堰堤の設置を希望します。

## 7. 大正池と下千丈沢合流付近

当会青柳薫理事；

上千丈沢における砂防堰堤工事着工は大変ありがとうございます。下千丈沢においても土砂の流出が激しく大正池への流入が懸念されます。流路の土砂の撤去と上部に砂防堰堤の設置をお願いしたい。

大正池においては、かねてから東京電力（株）が自費にて浚渫工事を行っている。しかしながらその範囲を超える池上流部の堆積土は大量であり河川が陸地化している。

早急な撤去が必要と考えます。



－ 当会青柳理事より大正池で説明を受ける －



－ 沢より土砂流入が激しい大正池 －



## 8. 国道158号中ノ湯橋下流付近



— 小林上高地町会長より説明を受ける —

小林上高地町会長；

梓川の流れにより護岸の浸食が激しい。一部は、のり固めのコンクリートの基礎下部までえぐられて露出している。かつては流れを抑制する「テトラポット」もあったのだがもう流されてしまい効果が無くなっている。早急な施策に取り掛かってほしい。中の湯橋であるが、平成7年の建設で老朽化が進んでいる。部分補修は行われているが、護岸の強度調査も含め橋の強靱化もお願いしたい。

### 2日目 10月18日

2日目は昨日に引き続き、忠地理事長以下当会理事数名と石尾松本砂防事務所長、太田松本建設事務所長、長野県松本地域振興局中宿林務課長、松本市より石田アルプスリゾート整備本部長、高山松本市奈川地域づくりセンター長など大勢の方々にご同行いただき、奈川地区の現地調査を実施しました。

## 9. 国道158号奈川渡トンネル及び仮称狸平トンネルの残土埋め立て地



松本建設事務所小林係長から説明を受けました。現在の残土搬入量は約20万m<sup>3</sup>、今後約5万m<sup>3</sup>が搬入される予定で、重金属が混じった残土が下流へ流出しないように二重構造の遮水シートで覆う工事などを行っており、埋め立て終了後は耕土を入れてそば畑として利用できるように復元するとのことです。

数ヘクタールの畑一面にそばの花が咲く日が来ることを楽しみにしたいと思います。

## 10. 屋形原養魚場上部付近

松本地域振興局林務課の栗原課長補佐より一昨年市道上部の山腹が崩壊した現場で今後の復旧工事の概要説明を受けました。

今後は、松本市の関係部局と協議しながら進めていくとのことです。

下には営業している養魚場もあり、早期に復旧されることを要望しました。



## 11. 里山砂防工事現場（そばの里奈川前）

松本砂防事務所の宮澤梓川出張所長から工事の概要について説明を受けました。

工事範囲は寄合渡から境峠までの計画ですが、緊急性の高いところから順次工事を行っていくということです。

当会から、境川に並行して走る県道奈川木祖線は観光客も多く通るので、環境への配慮と少し憩えるような整備をしていただくように要望しました。

## 12. 河床低下の激しい奈川

(奈川デイサービスセンター付近)

一昨年の豪雨で河床が2メートル以上低下し、隣接する福祉施設や県道奈川木祖線への影響も危惧されます。

床固工や帯工などを設置して河床を安定化させていただきたいことを要望しました。



## 13. 黒川渡法面工工事現場

松本砂防事務所の宮澤梓川出張所長から工事の概要と今後の日程などについて説明を受けました。

この工事は上部から法面を整備する工法で行っており、完成は2～3年後ということです。

両日とも、現地調査終了後に、出席者全員で個別の調査箇所ごとに意見交換を行いました。



— 10月16日 上高地防災情報管理センターにて —



— 10月18日 奈川文化センター夢の森にて —



# 国土交通省砂防部等への要望活動を実施

11月17日国土交通省草野慎一砂防部長等への要望活動を実施しました。  
 当日は当NPOから忠地義光理事長、上條敏昭副理事長、奥原二美人副理事長、百瀬輝正理事の4名と松本市より桐沢明雄建設部長及び石尾浩市松本砂防事務所長、太田茂登松本建設事務所長、務台俊介衆議院議員にもご同行いただき、以下の要望を具体的に説明し、国土交通省草野慎一砂防部長からご意見を伺いました。

- NPOからの要望内容は以下のとおり
- 1、梓川上流上高地の砂防事業の促進（河床上昇対策、中千丈沢・下千丈沢の砂防事業など）
  - 2、活火山焼岳噴火対策の整備促進
  - 3、梓川流域の各支川流域における砂防事業の促進
  - 4、砂防施設長寿命化対策の促進



— 忠地理事長より草野砂防部長に要望書を渡す —



— 要望内容について懇談風景 —

また、全国治水砂防協会大野理事長及び当会の顧問でもある砂防フロンティア亀江理事長の表敬訪問も行い、当会へのご指導とご支援をお願いしました。



— 全国治水砂防協会大野理事長表敬訪問 —



— 砂防フロンティア亀江理事長表敬訪問 —

# 令和5年度 ～砂防について学ぼう～ 地域を守る砂防防災セミナー

日 時 令和5年11月8日（水）  
 場 所 1. 武智川下流床固工群（長野県諏訪郡富士見町）  
 2. 空谷砂防堰堤（長野県諏訪郡富士見町、山梨県北杜市白州町）  
 3. 唐沢砂防堰堤（長野県諏訪郡富士見町）  
 参 加 者：奈川地区13名、安曇地区10名  
 内 容：下記のとおり

砂防防災や災害に対する防災知識を高めるため、富士川水系釜無川流域の3つの砂防施設を見学しました。

## 1. 武智川下流床固工群

釜無川に合流する武智川において、上流からの土砂を安全に流下させるために行われている護岸工事の様子を見学しました。ICTを活用した施工が特徴で、レーザー測量をもとに、設計データが出力され、マシンコントロールが搭載された建設機械を用いて施工が行われていました。マシンコントロールとは、自動車というカーナビのことで、設計データと建設機械の位置情報をもとに、作業箇所や掘削量がモニターに示され、それに基づいて作業が行われていました。



また、形状の異なる複数の魚道を設けることで、より幅広い生物の遡上を助けたり、植物が生息しやすい環境保全型ブロックを用いたりして、環境への配慮がされていました。

## 2. 空谷砂防堰堤

昭和33年に完成した堰堤の補強工事の様子を見学しました。アンカー工法という方法で行われており、安全性と経済性に優れた補強が可能になるそうです。山間部で厳しい環境にある現場でしたが、太陽光発電システムにより電気を確保したり、スターリンク（低軌道衛星）によりインターネットを利用可能にしたり、作業環境を整える工夫がされていました。

## 3. 唐沢砂防堰堤

昭和25年に完成した、釜無川で最初に整備された堰堤を見学しました。石をコンクリートやモルタルを使って接着していく練石積構造が特徴で、完成から65年経った今もその様子を確認することがで



きました。昭和初期の砂防計画や施工技術、施工方法などの歴史を今に伝える貴重な砂防堰堤であり、良好な溪流空間であるため、平成22年に登録有形文化財として登録されたそうです。

ICTを活用することで、安全に効率よく事業が行われていたことが印象的でした。人が入ることのできない危険な場所では、ICTを活用し、遠隔で機械を操作して作業することもできるそうです。気候変動に伴い、自然災害が増加している今日、ICTの進化や発展が期待されると思いました。

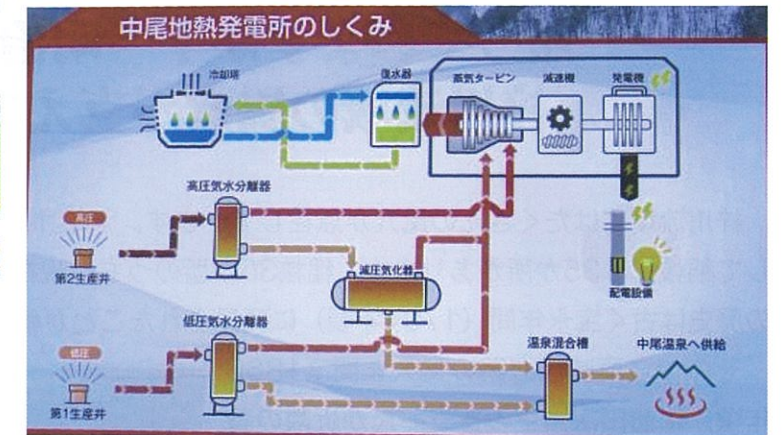
また、自然災害から身を守るための砂防事業ですが、自然と共生することを考え、環境に配慮していくことの大切さを感じました。

釜無川流域では、昭和初期からこれまで、多くの砂防事業が行われ、先人の知恵や苦勞が現代の私たちの暮らしを支えています。奈川や安曇地区でも同様に、砂防事業により地域の歴史、安全な暮らしが守られています。このことを忘れず、今回のセミナーで得た知識や感じたことを今後の生活に活かしていきたいと思います。

松本市奈川地域づくりセンター 森 永理奈



— 地熱発電所の概要説明を受ける —



— 地熱発電所の外観の一部 —



## NPO 法人神通砂防との交流会を開催

11月27日岐阜県高山市旧上宝村を拠点に活動しているNPO法人神通砂防との交流会を開催しました。

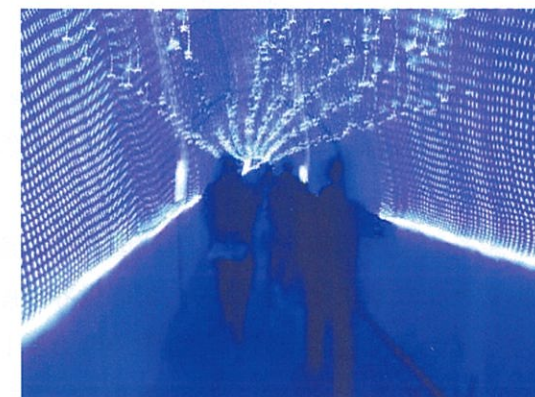
最初に中部電力グループ会社（株）シーエナジーの瀧川課長のご案内で「中尾地熱発電所」を視察させていただきました。

この施設は2013年に開発を開始し、目に見えない地中との戦いで幾多もの苦難を乗り越えて、2022年12月から運転を開始しました。

総事業費は約45億円で、出力は1,998KW4000世帯分の電力を賄えるそうです。発電方式はダブル・フラッシュ方式を採用しているとのことでした。

新穂高温泉・中尾地区の20件以上の温泉宿はここから出るお湯の供給を受けて営業しています。

午後から神通川水系砂防事務所職員から上宝地区の砂防施設のご案内とご説明を頂き、最後にNPO法人神通砂防から竹腰理事長以下理事数名と当会から忠地理事長以下理事数名、神通川水系砂防事務所の石井所長以下職員数名、松本砂防事務所の石尾所長以下職員数名、高山市下屋上宝支所長、松本市建設部の小松係長などの出席により、それぞれの活動状況の説明と意見交換を行う交流会を開催しました。



— しのぶ砂防堰堤内部のイルミネーション —



— 地獄平砂防堰堤 —



— NPO 神通砂防との交流会の様子 —



## 知っていますか？ 明治の近代国家は 梓川流域の風穴が支えていたことを

梓川流域にはたくさんの風穴が点在しています。沢渡1、大野川3、奈川1、島々5、波田4、そして稲核には35か所があります。稲核35か所のうち、現在稼働可能なものは13か所を数えます。その歴史は古く宝永年間（1704年頃）に発見されたことが稲核・前田風穴の記録に残されています。

その後江戸時代末期の文久年間（1866年頃）に前田家当主の喜三郎氏が近隣の養蚕研究者と試行錯誤を行なった結果「蚕の卵を風穴に貯蔵して、風穴からの出庫時期を遅らせることに依り、養蚕家が夏から秋までの自分の都合に合わせて蚕種のふ化時期を調整することが、可能になった」のです。

それまでは、通常は蚕のふ化は春のみか、たまに春と夏の2回ふ化する（2化性）方法しかなかったものが、年4～5回飼育することが可能となり、その技術は全国各地に波及していきました。

明治時代になると長野県、群馬県の養蚕地帯に多くの風穴が作られ、そして稲核発祥の技術を取り入れた風穴貯蔵業が各地で営業を始めました。稲核をはじめ、梓川筋にも十数軒が記録に残されています。明治30年代には稲核までの道は拡幅されて馬車が通行可能となり、郵便局が島々から僅か4km離れた稲核にも開設され、時期になると出荷の荷を積んだ馬車が何台も松本駅まで届けたことが記録に残されています。

世界遺産の群馬・富岡製糸場をはじめ、明治時代の日本は製糸産業が国家を支え、近代国家への道



— 風穴の里見学用風穴 —



— 稲核諏訪神社横風穴群 —

を進むことになります。富岡製糸場の世界遺産群となっている「荒船風穴」では現地のガイドが「信州稲核から伝えられた技術をもちいて養蚕業が一気に拡大しました」と伝えています。その後大正時代になると、風穴から電気冷蔵庫に交代が進みます。

このような経過を経て、明治時代の日本の近代化の大きな要因は、養蚕業が飛躍的に発展を遂げ、良質の生糸を海外に輸出したことが大きく上げられます。つまり稲核を含む梓川流域の風穴がその一端を担っていたのです。

稲核風穴保存会会長 有馬正敏